



ヘルメスの翼に

—小樽商科大学 F D 活動報告書—

第 13 集

目 次

まえがき

部門長挨拶

第 1 章 商学部

「授業改善のためのアンケート」集計結果（報告） 令和 2 年度（2020 年度）

第 2 章 大学院商学研究科（現代商学専攻）

「大学院 F D アンケート」集計結果（報告） 令和 2 年度（2020 年度）

第 3 章 大学院商学研究科（アントレプレナーシップ専攻）

「授業評価アンケート」集計結果と分析 令和 2 年度（2020 年度）

第 4 章 令和 2 年度 C G S 教育支援部門の活動状況

「コロナ禍における F D 活動」

令和 2 年度 C G S 教育支援部門スタッフ一覧

小樽商科大学グローバル戦略推進センター教育支援部門
(2020 年度)

まえがき

本報告書「ヘルメスの翼に―小樽商科大学FD活動報告書―第13集」は、令和2年度におけるグローバル戦略推進センター教育支援部門のFD活動をまとめたものです。

本学におけるFD活動は、平成12年度より教育課程改善委員会のもとに設置されたFD専門部会を実施主体として活動が続けてきました。その後、本学におけるFD活動を組織的に展開するために、教育課程改善委員会を発展的に解消しその機能を継承する教育開発センターが平成16年4月に設置されました。

平成19年度に教育開発センターの組織が改編され、FD活動は、学部におけるFD活動を「学部教育開発部門」が、大学院現代商学専攻におけるFD活動を「大学院教育開発部門」が、また、ビジネススクール（専門職大学院）である大学院アントレプレナーシップ専攻におけるFD活動は「専門職大学院教育開発部門」が実施主体となり展開されています。

FD活動を通じてより質の高い教育を実現するために、本学教職員、学生、関係者の忌憚のないご意見を教育支援部門にいただければ幸いです。

本報告書の表題「ヘルメスの翼に」は、本学の学章（シンボルマーク）「ヘルメスの翼に一星」から取ったものです。本学ホームページによると、学章について次のように説明されています。

この学章「ヘルメスの翼に一星」は、商業神ヘルメスの翼の上にある一星が、北の大地から英知の光を放つ様子をあらわしたものです。下のリボンには、1910年の創立と Otaru University of Commerce の頭文字が示されています。

ヘルメス(Hermes)は、ギリシャ神話の神の一人で伝令の神、また商業、学術などの神とされています。ローマではマーキュリー(Mercury)と呼ばれています。ヘルメスは2匹の蛇がからみついた翼の杖をもち、伝令の神として世界を飛翔しています。一星は、本学の前身である小樽高等商業学校以来、本学のシンボルとして用いられてきました。「北に一星あり。小なれどその輝光強し。」と謳われた本学の伝統を象徴しています。

FD活動を通じてより質の高い教育が実現でき、それによってヘルメスの翼に輝く一星がより強く光り輝くことを願って、本報告書の表題を「ヘルメスの翼に」としました。

本報告書は「学部教育開発専門部会」、「大学院教育開発専門部会」及び「専門職大学院教育開発専門部会」が中心となって作成したものです。どうぞご覧ください。

令和3年5月

2020 年度は、日本全国の大学で FD 活動を担当する教員・事務スタッフにとって、特別な年であったのではないのでしょうか。本学における FD 活動を担う CGS 教育支援部門も、例外ではありませんでした。2020 年の 3 月から本格的に蔓延し始めた新型コロナウイルスの感染防止のため、日本のみならず世界中の大学が急遽遠隔授業に転換せざるを得ない状況となったことは、周知の事実であります。本学でも、前期は全科目が遠隔授業となり、後期も大半の授業がオンラインで学生に届けられました。オンラインで配信する授業形態はほとんどの教員にとって未経験であったため、かつてないほどの時間をかけて遠隔授業のための FD 研修会を行うことになり、そこにやはりかつてないほど多くの教員が参加しました。

今回上梓しました本学の FD 活動報告書「ヘルメスの翼に」は、2000 年度から 2003 年度までの FD 活動をまとめた第 1 集から数えて第 13 集となります。言うまでもなく、この第 13 集は、ほぼ全ての授業における授業形態の大きな転換を強いられたことにより、これまでとは異なる意味を持たざるを得ないものとなりました。遠隔授業は教育の質を保証できたのか、遠隔授業の限界はどこにあるのか、さらには、対面授業にはない遠隔授業のメリットは何か、といった視点からこの報告書を見るならば、本学の FD 活動を新たな領域に広げる契機となるものであると前向きに捉えることもできます。

今回、分析結果が詳細に報告されている学部「授業改善のためのアンケート」は、例年通り、研究指導などを除くほぼ全ての学部の科目を対象としておりますが、アンケート項目に関しては遠隔授業の実施に合わせて変更されております。したがって、以前の年度と単純に比較はできませんが、各項目に対する回答の平均値から、学生の理解度や満足度などは概ね例年通りであったことが見て取れます。急造の研修会ではありましたが、多くの教員と事務スタッフの努力により、とりあえずは最低限の教育の質を維持することができたと安堵している次第です。

しかしながら、コロナ禍で行われた他の学生アンケートや教員アンケートとこの「授業改善のためのアンケート」の分析結果から、遠隔授業に関わるいくつかの改善すべき問題も浮かび上がっています。コロナが完全に収束するまでは少なからず遠隔授業が必要であることは、言うまでもありません。加えて、コロナ収束後にも遠隔授業がそのメリットを生かした形で活用される可能性も十分に考えられます。今後は、2020 年度から本格的に始動した教学 IR 室と連携しつつ、学内の様々なデータを活用して、遠隔配信を含めた効果的な授業方法を検討・開発することによって、より多くの学生に幅広い学びの機会を提供し、大学全体のさらなる教育改善につなげていくことが求められるでしょう。これを教育支援部門に課せられた責務として意識しつつ、日々の活動に力を尽くして参ります。

目 次

まえがき

部門長挨拶・・・・・・・・・・・・・教育支援部門長 佐 野 博 之

第 1 章 商学部における F D 活動

令和 2 年度 「授業改善のためのアンケート」集計結果・・・・・・・・・・・・・4

1. 調査の概要

1. 1 調査の目的

1. 2 調査の方法

2. 授業改善のためのアンケート調査結果

2. 1 実施状況

2. 2 回収状況

2. 3 評定値

2. 4 自由記述

3. まとめ

第 2 章 大学院商学研究科現代商学専攻における F D 活動

令和 2 年度 大学院 F D アンケート集計結果・・・・・・・・・・・・・18

1. 実施要項

2. 集計結果

[令和 2 年度 大学院生対象]

第 3 章 大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻における F D 活動

令和 2 年度 「授業評価アンケート」集計結果と分析・・・・・・・・・・・・・22

はじめに

1. アンケートの概要(質問項目, 集計結果)

2. アンケートの分析(「教員の教授法について」)

3. まとめ(分析結果のまとめ, 今回の研修で確認・議論しておきたい点)

第 4 章 令和 2 年度 C G S 教育支援部門の活動状況等

・ コロナ禍における F D 活動 (遠隔授業対応)

・ 令和 2 年度 CGS 教育支援部門スタッフ一覧

第1章 商学部

「授業改善のためのアンケート」集計結果

2020 年度「授業改善のためのアンケート」集計結果（報告）

1. 調査の概要

1.1 調査の目的

本学の授業の改善活動の一環として、履修者による授業改善アンケートを実施する。アンケート調査は、グローバル戦略推進センター教育支援部門学部教育開発専門部会で実施する。アンケート調査の実施後は、学部教育開発専門部会で集計・分析し、本学の FD 活動報告書「ヘルメスの翼に」およびグローバル戦略推進センター教育支援部門の web サイト上で公表する。ただし、集計したデータは授業科目が特定されるような公表は行わず、授業改善以外の目的には使用しない。

1.2 調査の方法

「令和 2 年度前期『授業改善のためのアンケート』実施要領」（図 1）および「令和 2 年度後期『授業改善のためのアンケート』実施要領」（図 2）にしたがい、表 1 の項目について調査を実施する。Q1 から Q9 は単項選択による回答形式とし、「1. 全くそう思わない」「2. そう思わない」「3. どちらともいえない」「4. そう思う」「5. とてもそう思う」の 5 件法で調査する。回答結果は、1～5 点に得点化した後、集計を行う。Q10 から Q12 は自由記述による回答形式とする。

令和２年度前期「授業改善のためのアンケート」実施要領

1. 実施科目

以下の科目を除いた「令和２年度前期開講科目」とする。

なお、非常勤講師担当の科目は、担当教員へ協力依頼を行い、その同意のうえ実施するものとする。

※以下の科目は、実施しないものとする。

- (1) 研究指導、卒業論文（夜間主）
- (2) 健康スポーツⅡc（スキー）
- (3) 教育実習に係る科目
- (4) 日本語科目
- (5) 社会連携実践Ⅰ～Ⅲ
- (6) アジア・オセアニア事情、ヨーロッパ事情、アメリカ事情
- (7) 履修者が10名以下の科目（希望があれば教員の依頼に基づき実施する。）

2. 実施期間 ●前期科目 令和２年７月28日（火）～8月14日（金）

●夏季集中講義 令和２年８月17日（月）～9月19日（土）

3. 実施方法 学習支援システム manaba を使用すること。

【注意事項】

※ 学生は 1科目につき1回（クラスのある科目については、1クラスにつき1回）、回答を行います。

※ 1科目を複数の教員で担当されている場合、manaba では「実施科目・担当教員一覧」のとおり担当教員を登録しております。

4. 集計・分析・結果の公表

①アンケートの集計は、学部教育開発専門部会で行う。

②集計結果は、学部教育開発部門で分析し報告書等で公表する。ただし、授業科目が特定されるような公表は行わない。

③集計したデータは、授業の改善以外の目的には使用しない。

④結果個票は、前期科目については9月上旬に、集中講義については令和２年２月頃に紙媒体で担当教員へ配付する。

5. 事務担当

教務課教務企画係

TEL : 0134-27-5236

E-Mail : k-kikaku@office.otaru-uc.ac.jp

図1 令和２年度前期「授業改善のためのアンケート」実施要領

令和２年度後期「授業改善のためのアンケート」実施要領

1. 実施科目

以下の科目を除いた「令和２年度後期開講科目」とする。

なお、非常勤講師担当の科目は、担当教員へ協力依頼を行い、その同意のうえ実施するものとする。

※以下の科目は、実施しないものとする。

- (1) 研究指導、卒業論文（夜間主）
- (2) 健康スポーツⅡc（スキー）
- (3) 教育実習に係る科目
- (4) 日本語科目
- (5) 社会連携実践Ⅰ～Ⅲ
- (6) アジア・オセアニア事情、ヨーロッパ事情、アメリカ事情
- (7) 履修者が10名以下の科目（基礎ゼミナールを除く）

※希望があれば教員の依頼に基づき実施する。

2. 実施期間：令和３年１月18日（月）～2月12日（金）

3. 実施方法 学習支援システム manaba を使用すること。

【注意事項】

※ 学生は 1科目につき1回（クラスのある科目については、1クラスにつき1回）、回答を行います。

※ 1科目を複数の教員で担当されている場合、manaba では「実施科目・担当教員一覧」のとおり担当教員を登録しております。

4. 集計・分析・結果の公表

①アンケートの集計は、学部教育開発専門部会で行う。

②集計結果は、学部教育開発専門部会で分析し報告書等で公表する。ただし、授業科目が特定されるような公表は行わない。

③集計したデータは、授業改善のための手がかりを得るためにのみ使用する。

④結果個票は、令和３年３月上旬頃に担当教員へ配付する。

5. 事務担当

教務課教務企画係

TEL：0134-27-5236

E-Mail：k-kikaku@office.otaru-uc.ac.jp

図２ 令和２年度後期「授業改善のためのアンケート」実施要領

表 1 授業改善のためのアンケート 質問項目

Q1	授業の企画意図や到達目標は明確に伝わったと思いますか。
Q2	この科目を深く理解できたと思いますか。
Q3	この科目への興味が高まったと思いますか。
Q4	この科目の内容を自分から予習したり復習したりしてみようと思いましたか。
Q5	この科目に関係のある分野への興味が高まったと思いますか。
Q6	教員や他の学生とのやりとりは、簡単でスムーズに行われていると思いましたか。
Q7	教員や他の学生とのやりとりは、活発で頻繁に行われていると思いましたか。
Q8	講義資料の配付やレポートの提出が、支障なく行えましたか。
Q9	web掲示板（manaba）やメール、SNS等により、授業に関する質問がしやすいと思いましたか。
Q10	この授業のなかで、映像や音声、資料配付、レポート提出など、システム等のトラブルがあれば、具体的にお書きください。
Q11	授業の中で、難しく感じた内容があれば、具体的にお書きください。
Q12	授業の中で、より深く掘り下げてほしい内容があれば、具体的にお書きください。

2. 授業改善のためのアンケート調査結果

2.1 実施状況

本学では、授業改善のためのアンケート調査結果は科目ごとに集計されており、その結果は、授業を担当した各教員へフィードバックされている。ここでは、授業改善のためのアンケート調査結果に関して、本学全体の概要と動向を報告する。

令和2年度における対象科目数は472科目（前期249科目，後期223科目）であり，すべての対象科目において調査が実施された（表2）。

表2 授業改善案アンケートの対象科目数

	前期	後期	通年	全体
対象科目数	249	223		472
非対象科目数	30	33	133	196

2.2 回収状況

調査が実施された科目について，対象履修者数および回答者数，回収率を表3に示す。表3では，開講期別に各数値を示している。

全履修者数は33,767名（前年度32,055名），うち回答者数は14,885名（前年度11,957名），全体の回収率は44.1%（前年度37.3%）であった。開講期別の回収率は，前期46.5%（前年度38.9%），後期40.6%（前年度35.0%）となっている。前年度に比べて，前期の回収率は7.6ポイント上昇，後期は5.6ポイント上昇，全体では6.8ポイント上昇している。

表3 授業改善アンケートの開講期別履修者数・回答者数・回収率

開講期	履修者数	回答者数	回収率
前期	19,725	9,180	46.5%
後期	14,042	5,705	40.6%
年間計	33,767	14,885	44.1%

2.3 評定値

授業改善アンケートの各質問項目に対する評定値（平均値，標準偏差）を表4へ示す。全体的に，前期より後期の方がやや平均値は高い傾向にある。全体の平均値は，いずれも3.5から4程度であり，アンケートに回答した学生は概ね問題なく履修しているといえる。

表 4 授業改善アンケートの各質問項目に対する平均値および標準偏差

質問項目	前期		後期		全体	
	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD
Q1 授業意図・到達目標	4.04	0.89	4.08	0.88	4.06	0.89
Q2 科目の理解	3.81	0.95	3.85	0.94	3.82	0.95
Q3 科目への興味	3.84	1.02	3.90	1.01	3.86	1.02
Q4 予習・復習	3.56	1.07	3.70	1.05	3.61	1.07
Q5 関連分野への興味	3.77	1.01	3.84	1.00	3.80	1.00
Q6 やりとりのスムーズさ	3.72	1.06	3.76	1.04	3.74	1.05
Q7 やりとりの活発さ	3.54	1.14	3.53	1.14	3.54	1.14
Q8 資料配付・レポート提出	4.13	0.95	4.23	0.87	4.17	0.92
Q9 質問のしやすさ	3.76	1.04	3.76	1.03	3.76	1.04

2.4 自由記述

アンケートに回答した 14,885 名のうち、Q10「システムのトラブル」は 2,334 件(15.7%)、Q11「難しい内容」は 2,259 件(15.2%)、Q12「掘り下げてほしい内容」は 1,553 件(10.4%)の自由記述を得た。

自由記述について、KH Coder¹による共起ネットワーク分析を行った。Q10「システムのトラブル」について、出現単語の頻度(上位 150 個)を表 5、共起ネットワークを図 3 へ示す。Q11「難しい内容」について、出現単語の頻度(上位 150 個)を表 6、共起ネットワークを図 4 へ示す。Q12「掘り下げてほしい内容」について出現単語の頻度(上位 150 個)を表 7、共起ネットワークを図 5 へ示す。

Q10「システムのトラブル」における出現頻度の最も高い単語は「特に」となっているが、ほとんどが「特になし」であった。2,334 件の回答件数の約 3 分の 1 は問題ないといえる。次に頻出した単語は「授業」であった。授業に関する用語として「動画／音声／Zoom／途切れる／乱れ」といった Zoom によるリアルタイム授業のトラブルに関する記載があった。また、「時間」では、「講義／資料／配布／アップロード」といった、オンデマンド授業において動画や課題が時間通りにアップロードされないトラブルについての言及が見られた。その他、「テスト／提出／課題／レポート／manaba」といった manaba(学習管理システム)での試験やレポートに関する意見や、「インターネット／回線／落ちる」、「環境／Wi-Fi／教員」、「画面／共有」といったオンライン授業特有のトラブルに関する意見が見られた。

¹ 樋口耕一(2020) 社会調査のための計量テキスト分析 ―内容分析の継承と発展を目指して― 第 2 版. ナカニシヤ出版

Q11「難しい内容」における出現頻度の最も高い単語は「難しい」であった。難しいに関連する単語として「授業／感じる／内容／理解／テスト／問題」,「全体／難易／高い」といったものがあつた。また,「量／多い／大変」,「レポート／課題／書く／提出」,「資料／読む／教科書」といった課題の量や方法に関する意見や,「グループ／ディスカッション／意見／話す」といったオンライン授業での議論に関する意見が見られた。

Q12「掘り下げてほしい内容」における出現頻度の最も高い単語は,「特に」となっているが,ほとんどが「特になし」であつた。次に頻出した単語は「思う」であり,関連する用語として「授業／内容／知る／深い／感じる」などがあつた。「もう少し／時間／興味」,「時間／練習／動画」,「聞く／話」,「理解／難しい／勉強」といった,より高度な授業や,動画をもう少し聴講したいといった学習意欲に関する意見も見られた。また,掘り下げてほしい内容ではないが,「ありがとう／楽しい／説明／丁寧」といった授業や教員に対する感想もあつた。

3. まとめ

令和 2 年度「授業改善のためのアンケート」結果では,次のようなことが明らかとなつた。

- ・授業改善アンケートは,全ての対象科目について実施され,全体の回答者は 14,885 名であつた。回収率は,前年度より 6.8 ポイント上昇し, 44.1%であつた。前期,後期とも前年度に比べて回収率は大幅に上昇している。
- ・授業改善アンケートの各質問項目に対する平均値は 3.5 から 4 程度であり,回答した学生は概ね問題なく履修しているといえる。
- ・自由記述については,アンケートに回答した 14,885 名のうち,約 15%の履修者から記述があつた。

表 5 Q10「システムのトラブル」の出現単語（上位 150 個）

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
特に	891	非常	48	出る	30
授業	571	聞こえる	48	遅れる	30
音声	349	教員	47	落ちる	30
動画	307	回答	46	連絡	30
時間	283	使う	46	開始	29
思う	267	出来る	46	部分	29
講義	240	乱れ	46	PDF	28
提出	227	確認	45	期間	28
テスト	213	期末	45	気	28
先生	198	書く	45	共有	28
Zoom	196	遅い	45	全く	28
感じる	194	不具合	45	印刷	27
トラブル	193	良い	45	科目	27
資料	182	言う	44	解答	27
レポート	148	試験	44	人	27
課題	136	YouTube	43	接続	27
映像	127	システム	42	評価	27
問題	123	形式	42	助かる	26
見る	105	ファイル	41	大きい	26
多い	105	メール	41	教授	25
manaba	92	もう少し	40	使用	25
改善	92	前	39	出席	25
内容	82	前半	39	場合	25
受ける	80	スムーズ	38	対面	25
途切れる	77	対応	38	入る	25
少し	75	不安	38	必要	25
聞き取る	75	ロード	37	履修	25
アップ	72	支障	37	考える	24
配布	70	毎回	37	仕方	24
質問	68	多々	36	勉強	24
学生	67	長い	36	自体	23
後半	63	期限	35	設定	23
公開	63	出す	35	負担	23
最初	63	聞く	35	違う	22
生徒	60	困る	34	回	22
悪い	57	再生	34	提示	22
行う	57	止まる	34	読む	22
受講	56	パソコン	33	ありがとう	21
オンライン	55	時々	33	レジュメ	21
配信	53	板書	33	最後	21
分かる	53	無い	33	最終	21
画面	52	乱れる	33	インターネット	20
他	52	Wi-Fi	32	ポイント	20
説明	51	回線	32	残念	20
環境	50	音	31	情報	20
途中	50	掲示板	31	状況	20
理解	50	成績	31	早い	20
スライド	48	声	31	知る	20
自分	48	デマンド	30	難しい	20
大変	48	リアルタイム	30	文字	20

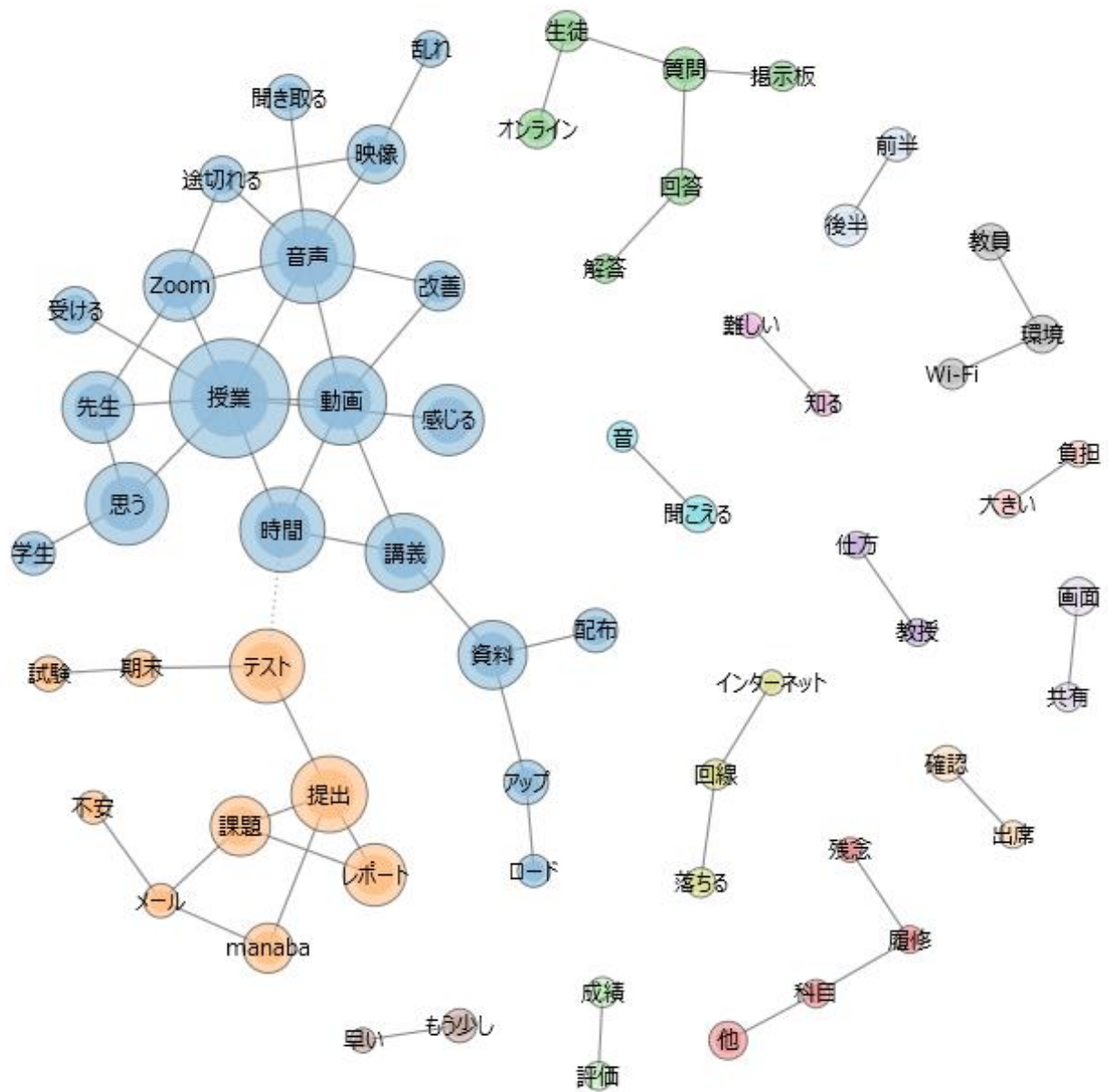


図3 Q10「システムのトラブル」の共起ネットワーク

表 6 Q11「難しい内容」の出現単語（上位 150 個）

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
難しい	746	計算	47	受講	23
特に	650	読む	46	詳しい	23
授業	440	非常	43	状況	23
感じる	419	受ける	41	知識	23
内容	342	生徒	41	欲しい	23
思う	340	対面	41	履修	23
理解	304	グループ	40	量	23
レポート	235	出る	39	ディスカッション	22
テスト	191	試験	38	回	22
多い	191	復習	38	確認	22
講義	190	Excel	37	教える	22
課題	157	意味	37	個人	22
問題	157	単語	37	証明	22
先生	138	勉強	37	配布	22
説明	136	期末	36	The	21
時間	134	発音	36	デマンド	21
自分	132	レジュメ	35	改善	21
少し	130	高い	34	形式	21
全体	107	最初	34	専門	21
分かる	106	分野	34	調べる	21
英語	96	基礎	33	不安	21
大変	89	方法	33	文字	21
資料	86	Zoom	32	聞き取る	21
解説	83	覚える	31	予習	21
書く	79	作成	31	苦労	20
部分	72	最後	30	仕方	20
提出	70	情報	29	場合	20
動画	70	必要	29	短い	20
人	66	話	29	範囲	20
良い	66	分析	28	テーマ	19
もう少し	59	科目	27	レベル	19
難易	59	他	27	ワーク	19
スライド	56	話す	27	期限	19
行う	56	意見	26	疑問	19
毎回	55	取る	26	苦手	19
オンライン	53	全て	26	終わる	19
言う	53	知る	26	前半	19
全く	53	丁寧	26	複雑	19
学ぶ	52	文章	26	変わる	19
教科書	52	無い	26	用語	19
学習	51	回答	25	コミュニケーション	18
見る	51	経済	25	リスニング	18
考える	51	初めて	25	扱う	18
質問	51	数学	25	検定	18
聞く	51	違う	24	参考	18
音声	50	形	24	持つ	18
学生	49	実際	24	習う	18
後半	49	出来る	24	出題	18
評価	49	日本語	24	書き方	18
使う	48	慣れる	23	正直	18

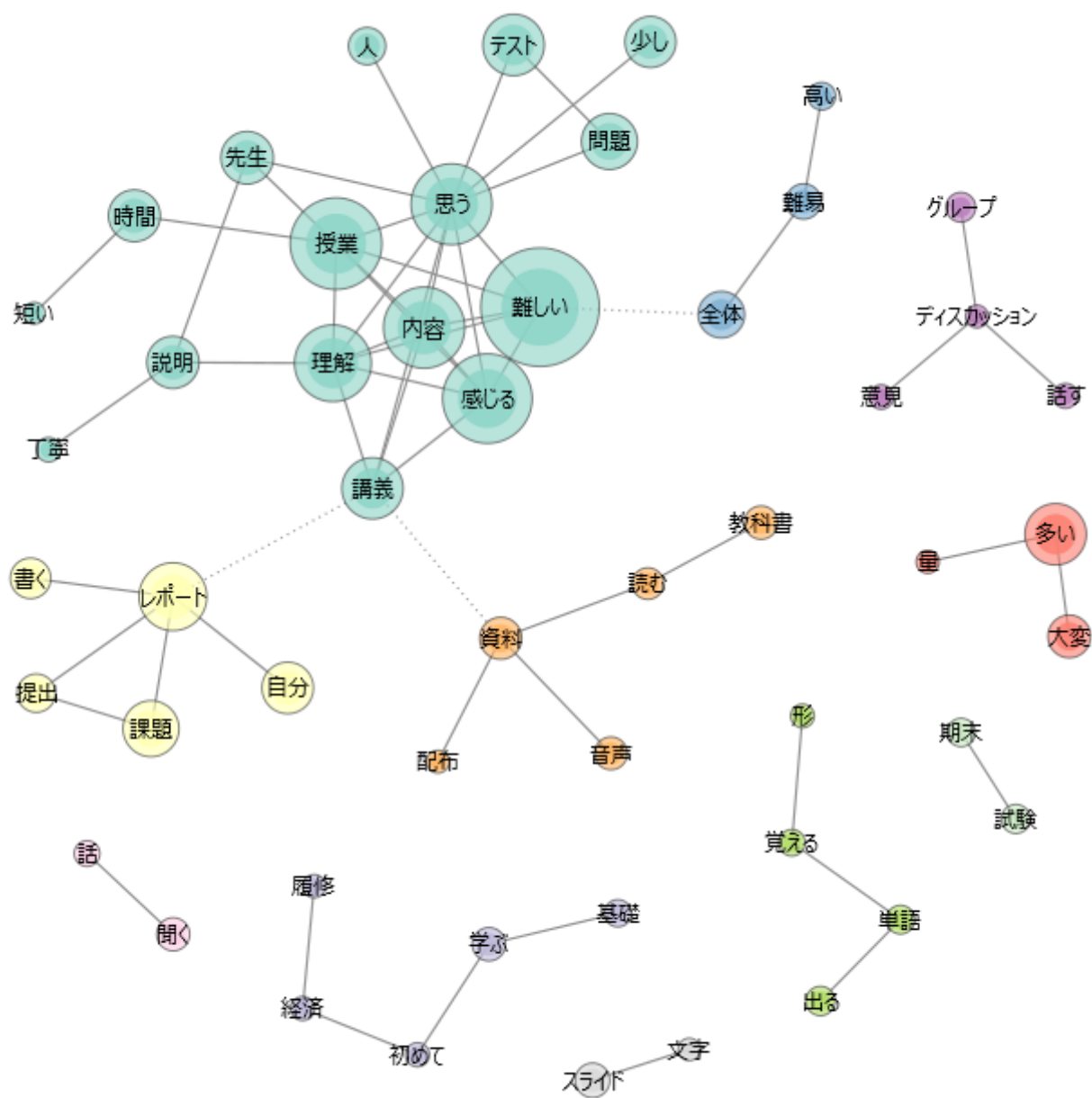


図4 Q11「難しい内容」の共起ネットワーク図

表 7 Q12「掘り下げてほしい内容」の出現単語（上位 150 個）

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
特に	779	学習	20	試験	12
思う	287	嬉しい	20	資料	12
授業	201	十分	20	実践	12
講義	100	学生	19	情報	12
内容	100	経済	19	範囲	12
感じる	88	見る	19	会話	11
もう少し	87	他	19	興味深い	11
深い	74	例	19	後期	11
掘り下げる	69	少し	18	取り上げる	11
知る	68	前期	18	フランス	10
先生	67	部分	18	意見	10
ありがとう	63	満足	18	感想	10
学ぶ	56	履修	18	事例	10
説明	50	レジュメ	17	単位	10
理解	47	具体	17	本当に	10
良い	46	今後	17	お願い	9
問題	44	知識	17	お話	9
レポート	43	読む	17	グループ	9
面白い	43	練習	17	ジェンダー	9
詳しい	40	オンライン	16	改善	9
聞く	39	科目	16	教材	9
解説	37	学べる	16	形	9
受ける	37	書く	16	作る	9
多い	35	紹介	16	取る	9
楽しい	34	生徒	16	身近	9
時間	34	全体	16	単元	9
教える	33	丁寧	16	単語	9
使う	32	文化	16	無い	9
分かる	30	今	15	様々	9
個人	29	評価	15	In	8
動画	29	関係	14	manaba	8
自分	27	現在	14	Zoom	8
実際	27	持つ	14	プログラミング	8
質問	26	取り扱う	14	意味	8
課題	25	生活	14	遠隔	8
文法	25	非常	14	活用	8
話	25	方法	14	疑問	8
テスト	24	Excel	13	言う	8
興味	23	I	13	後半	8
考える	23	扱う	13	公開	8
対面	23	機会	13	国際	8
難しい	23	教授	13	最後	8
分野	23	残念	13	自身	8
英語	22	出来る	13	終わる	8
行う	22	大変	13	出す	8
教科書	21	欲しい	13	触れる	8
社会	21	企業	12	深まる	8
受講	21	形式	12	身	8
勉強	21	計算	12	人	8
毎回	21	今回	12	多く	8

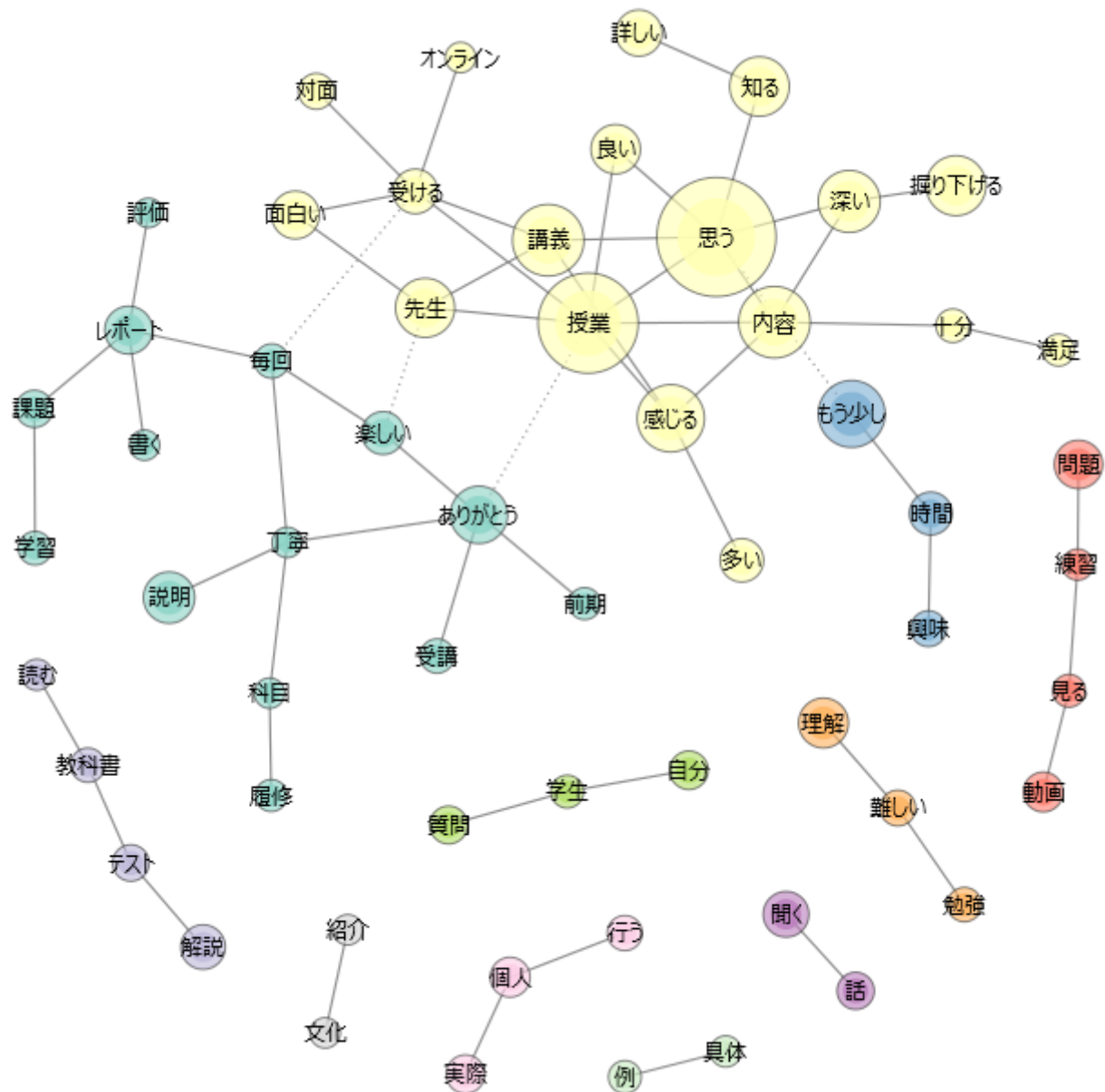


図5 Q12「掘り下げてほしい内容」の共起ネットワーク図

第2章 大学院商学研究科(現代商学専攻)

令和2年度 大学院FDアンケート集計結果

令和２年度「大学院FDアンケート」実施要項

1. 本アンケートの目的

大学院現代商学専攻博士前期・後期課程の教育課程（カリキュラム）及び教育支援体制に関して幅広く学生から意見等を聴取し、今後の大学院指導に資することを目的として実施する。

2. 対象者

令和２年度に現代商学専攻博士前期・後期課程に在籍する学生

3. 実施時期

令和２年 10 月 19 日（月）～11 月 20 日（金）

4. 実施方法

- ・対象者にメールで依頼をする。
- ・WEB アンケートシステムから回答してもらう。

5. 集計・分析・結果の公表

- （１）アンケートの集計は、大学院教育開発専門部会で行う。
- （２）集計結果は、大学院教育開発専門部会で分析し公表する。ただし、個々の学生等が特定されないようにする。

6. 事務担当（提出先）

学生センター教務課教務企画係

平日 8:30～21:00

TEL : 0134-27-5236

E-mail : k-kikaku@office.otaru-uc.ac.jp

大学院 FD アンケート(大学院生対象):集計結果

本調査では、博士前期課程・後期課程の教育課程(カリキュラム)及び教育体制に関して、幅広く学生の意見・希望を聴取し、今後の大学院指導の参考にすることを目的としています。成績評価等には関係しませんので、率直な意見をご記入ください。

【回答方法】以下の該当する番号等に「○」をつけてください。

1 : 全くそう思わない, 2 : あまりそう思わない, 3 : どちらともいえない, 4 : ややそう思う, 5 : 強くそう思う

対象者数 : 25 名 回答者数 : 18 名 回収率 : 72.0%

1) あなた自身にとって、興味深い科目が開講されている。	3.94
2) 幅広い内容にわたって、科目を選択することができる。	4.00
3) 履修科目を決定する際、シラバスが参考になった。	4.17
4) 大学院に期待していたとおりの知識や技能を獲得できた。	3.89
5) 修了に必要な「講義科目」の単位数は適切である。	4.22

(学習・研究活動に関する意見等を記入してください) : 自由記述

○もう少し金融に関する科目を開設した方がいいと思います。

○1) number of economics courses is not enough, so it's difficult for economics doctoral students to select appropriate and enough courses to study.

(経済学を専攻する博士課程の学生にとって、経済学のコースの数が十分ではないため、勉強するのに適切で十分なコースを選択することは困難です。)

2) actually doctoral students need to spend a lot of time on research in their fields, so course is only a kind of tool to help them to deal with problems they can't solve by themselves or cover the knowledge they don't know, so only using credits to measure performance of doctoral students is not enough and unfair, instead, their research should also be included in grades with great proportion to evaluate their performance.

(博士課程の学生は自分の分野の研究に多くの時間を費やす必要があるため、コースは自分では解決できない問題に対処したり、知らない知識をカバーしたりするためのツールにすぎません。したがって、博士課程の学生を単位のみで評価することは不十分で不公平です。博士課程の学生を評価する上では、研究もまた大きな割合を占めるべきです。)

6) 指導教員から、十分な指導(研究指導・論文指導など)を受けている。	4.61
7) 研究に必要な図書資料(書籍・論文)が、十分に整備されている。	3.72
8) 研究に必要な電子ジャーナル・データベースが、十分に整備されている。	3.39
9) 大学院生の共同研究室は、研究活動に適した環境である。	3.44
10) 学内設備(PCなど)の利用環境が整っている。	3.44

(図書資料・電子ジャーナル等や設備に関する意見等を記入してください) : 自由記述

○研究室と図書館が寒いと思います。

○図書館に研究に必要な書籍の蔵書がない場合に、新書購入希望が 1 週間に 1 冊しかできないのは、若干不便に感じた。自分は借りた書籍をコピーし、アンダーラインを引きながら読み進めていくタイプなので、研究室にコピー機があればいいなと思った。

1 1) 進路（就職活動を含む）や経済支援など、学生生活全般について相談できる環境がある。 3.50

1 2) 学内の講義や研究指導以外に、研究会や勉強会に参加したことがある。 はい 28% いいえ 72%

1 3) 現在の大学院における学習活動に満足している。 3.78

(学生生活全般に関する意見等を記入してください)：自由記述

○自由記述なし

(その他、意見等がありましたら記入してください)：自由記述 ※遠隔授業について等

○自由記述なし

第3章 大学院商学研究科
(アントレプレナーシップ専攻)
令和2年度 「授業評価アンケート」集計結果と分析

令和 2 年度 授業改善アンケート集計結果と分析

グローバル戦略推進センター
専門職大学院教育開発専門部会

はじめに

本報告書は、令和2年度に開講した43科目中、「経済学・分析手法Ⅰ（行動意思決定の基礎）」「特殊講義Ⅰ（ノースウェスタン大学集中講義）」を除く41科目の「授業改善アンケート」の集計結果とその分析結果、ならびに「成績評価」の集計結果とその分析結果を取りまとめたものである。

「授業改善アンケート」は、授業参観による「同僚評価」と教員自身による「自己評価」とともに、授業の改善に結びつくヒントを探ろうとするものであり、これらを活用することで、より品質の高い授業の実現を図るものである。これに対して、「成績評価」は本専攻の在学生ならびに修了生による学習活動の成果を確認し、より一層の能力向上を図ろうとするものである。

なお、以下では「授業改善アンケート」のことを指して「アンケート」と表記している。

第1章 アンケートの概要

1. 1 質問項目

アンケートは20項目からなり、それぞれの質問項目は以下のとおりである。なお、質問項目1, 2, 4は五点尺度の回答と併せて自由記述による回答を、質問項目18, 19, 20は自由記述による回答を求めている。以前まで項目数は15項目であったが、平成28年度から、認証評価用のアンケートとの一本化を行い、それに伴って項目数が増加している。

- 1) 本科目は、下記の【カリキュラム・ポリシー】と照らして、十分に整合していますか。
- 2) 本科目の授業内容は、本専攻が目指している【学生に身につけさせたい学力・資質・能力や養成する人材像】と照らして、十分に整合していますか。
- 3) 本科目の授業内容は、シラバスに記載された授業の目的と照らして、十分に整合していますか。
- 4) 本科目では、ケース・メソッドの導入や各種エクササイズの実施、対話・討論型の授業運営、多彩なメディアや情報機器の活用など、履修生の理解を促しスキルの習得に資する工夫がみられましたか。
- 5) 授業における教員の説明（話し方の明瞭さやパワーポイントの見やすさを含む）は、分かりやすかったですか。
- 6) 授業で用いられた題材や資料は、授業を理解する上で適切なものでしたか。
- 7) 授業で行われたグループワークやグループディスカッションについて、そこから得るものがありましたか。
- 8) プレゼンテーションや全体ディスカッション（質疑応答を含む）について、そこから得るものがありましたか。
- 9) 本科目では、授業時間以外の学習（例えば、事前・事後の課題、予習、復習等）について、その必要性がどのくらいあると思いますか。
- 10) 本科目における事前・事後の課題や教室外での学習等について、シラバスではその内容が適切に記述されていましたか。また、学修管理システム等で適宜、適切に周知されていましたか。（シラバスにおける内容の適切さ／学修管理システム等で適宜周知される内容の適切さ）
- 11) 事前課題は、授業を理解する上で役に立ちましたか。
- 12) 事後課題ないしレポートの作成から得るものがありましたか。
- 13) 課題・レポート返却のタイミングや、コメントは適切なものでしたか。
- 14) 授業時間外での対応について、相対による教員の対応や学修管理システムを活用した対応は適切でしたか。
- 15) シラバス等において、モジュールごとの授業内容の記述は適切でしたか。（シラバスにおける内容の適切さ／学修管理システム等で適宜周知される内容の適切さ）
- 16) シラバスに記載された成績評価の方法・基準について、その内容は適切に記述されていましたか。また、学修管理システム等で適宜、適切に周知されていましたか。（シラバスにおける内容の適切さ／学修管理システム等で適宜周知される内容の適切さ）
- 17) 本科目の授業について、満足しましたか。
- 18) 本科目の授業について、良かった点をお知らせください。（5つまで）
- 19) 本科目の授業について、こうすれば良かったという点をお知らせください。（5つまで）
- 20) その他お気づきの点がございましたらお知らせください。

なお、アンケートは各質問項目については5段階評価を行っており、評価対象の授業において該当しない質問項目については記述しないよう注意書きを施している。また、以下の記述においては、表記を簡潔にするために各質問項目を表1のように略記している。

表 1 質問項目の表記方法

質問項目	表記法	質問項目	表記法	質問項目	表記法
1)	カリキュラム	9)	時間外学習	15)	シラバス内容
2)	学力/資質/能力	10)	シラバス時間外		学修管理システム内容
3)	シラバス整合性		学修管理システム時間外	16)	シラバス成績
4)	理解促進	11)	事前課題		学修管理システム成績
5)	説明	12)	事後課題	17)	満足度
6)	資料	13)	コメント	18)	評価点
7)	グループワーク	14)	時間外対応	19)	改善点
8)	ディスカッション			20)	自由記述

1. 2 アンケートの集計結果

アンケートは、令和 2 年度に開講した 43 科目中 41 科目で実施し、各科目の回答者数は表 2 に記載のとおりである。令和 2 年度のアンケート回収率は 83.2%であり、昨年度の 90.1%より下降した。本アンケート調査は、FD 基礎資料としてのみならず、認証評価においても重要なデータとなっており、回収率向上のために具体的な対策が必要な状況であろう。

表 2 アンケート実施状況

	区分	授業科目	担当教員	履修者数	回答者数	回収率
1	基本科目（ベーシック）	経営戦略Ⅰ（経営戦略）	李 濟民	30	28	93.3%
2		マーケティングⅠ（マーケティングマネジメント）	近藤 公彦	30	29	96.7%
3		経営組織Ⅰ（組織行動マネジメント）	西村 友幸	31	32	100.0%
4		アカウンティングⅠ（財務会計）	旗本 智之	30	26	86.7%
5		ファイナンスⅠ（コーポレートファイナンス）	手島 直樹	32	23	71.9%
6		ビジネス倫理	南 健悟	31	27	87.1%
7	基礎科目（コア）	ビジネスシミュレーション	旗本・芝・椎名・谷・渡部	20	15	75.0%
8		経営戦略Ⅱ（イノベーション戦略）	玉井 健一	22	18	81.8%
9		マーケティングⅡ（市場志向経営）	猪口 純路	23	14	60.9%
10		経営組織Ⅱ（問題解決能力の開発）	林 亜衣子	19	14	73.7%
11		経営組織Ⅲ（戦略的人的資源管理）	西村 友幸	17	18	100.0%
12		アカウンティングⅡ（コストマネジメント）	堺 昌彦	20	20	100.0%
13		アカウンティングⅢ（予算管理と業績評価）	乙政 佐吉	14	11	78.6%

	区分	授業科目	担当教員	履修者数	回答者数	回収率
14	基礎科目 (コア)	ファイナンスⅡ（企業価値経営）	手島 直樹	7	10	100.0%
15		ビジネス法務Ⅰ（ビジネス法務の基礎）	河森・小林(友)・多木・竹村・片桐	19	12	63.2%
16		経済学・分析手法Ⅰ（行動意思決定の基礎）*	非開講			
17		経済学・分析手法Ⅱ（ビジネス統計分析）	西山茂・谷祐児	12	6	50.0%
18		経済学・分析手法Ⅲ（ビジネスエコノミクス）	仙北谷 康	7	7	100.0%
19		ベンチャー経営Ⅰ（企業家精神）	瀬戸 篤	3	3	100.0%
20		地域経済・経営Ⅰ（プロジェクト・マネジメント）	宇田川 耕一	21	18	85.7%
21		地域経済・経営Ⅱ（北海道でのビジネス創造と地域経営）	千葉 俊輔	18	12	66.7%
22		地域経済・経営Ⅲ（北海道経済の課題）	下川 哲央	4	3	75.0%
23		ビジネス英語Ⅰ（初級ビジネス英語）	浦島 久	13	11	84.6%
24	発展科目 (エレクトイブ)	統合科目Ⅰ（サービスマネジメント）	内田 純一	22	18	81.8%
25		統合科目Ⅱ（企業変革とリーダーシップ）	鈴木 真人	16	15	93.8%
26		統合科目Ⅲ（グローバルマネジメント）	李 濟民	9	6	66.7%
27		統合科目Ⅳ（戦略的CSR）	太田 稔	14	10	71.4%
28		アカウンティングⅣ（国際会計）	松本 康一郎	7	4	57.1%
29		ファイナンスⅢ（金融機関マネジメント）	齋藤 一朗	5	5	100.0%
30		ビジネス法務Ⅱ（知的財産マネジメント）	小寺・富田・太田	14	12	85.7%
31		ベンチャー経営Ⅱ（テクノロジービジネス創造）	瀬戸篤・武田立	4	5	100.0%
32		ベンチャー経営Ⅲ（アントレプレナーの起業戦略）	坂本 英樹	26	20	76.9%
33		ビジネス英語Ⅱ（初中級ビジネス英語）	小林 敏彦	9	10	100.0%
34		ビジネス英語Ⅲ（中級ビジネス英語）	小林 敏彦	7	7	100.0%
35		特殊講義Ⅰ（ノースウェスタン大学集中講義）	近藤・猪口			
36		特殊講義Ⅱ（地域医療マネジメント）	李・北川 他	8	6	75.0%
37		特殊講義Ⅲ（Demola program）	籾本・玉井・猪口・金子	2	4	100.0%

	区分	授業科目	担当教員	履修者数	回答者数	回収率
38	実践科目	ビジネスプランニングⅠ	齋藤・内田・藤原・奥田・太田・井馬	31	22	71.0%
39		ビジネスプランニングⅡ	齋藤・手島・内田・藤原・奥田・太田・井馬	37	32	86.5%
40		ケーススタディⅠ	近藤・堺・西村・北川	31	29	93.5%
41		ケーススタディⅡ	簗本・玉井・猪口	36	33	91.7%
42	ワビ ジ ク ネ ス シ ス ヨ ッ プ	ビジネスワークショップ	李・玉井・堺・小林（敏）・瀬戸・後藤・奥田	34	25	73.5%
43		リサーチペーパー	アントレ専攻専任教員全員	34	20	58.8%
			合計および平均	769	640	83.2%

＊非開講

※回答者数が履修者数を超えているものは、回答者にリカレント受講生や現代商学専攻の受講生等が含まれている。その場合、回答率 100%を超えるが、そうした場合には、回答率をすべて 100%に修正している。
科目番号 35 については、海外での集中講義のためアンケートを実施していない。

各質問項目に対する 5 段階評価の評価合計数と、各質問項目の平均評価値については、表 3 に示したとおりである。

表 3 回答数と平均値

質 問 項 目			カリキ ュラム	学力/ 資質/能力	シラバス 整合性	理解 促進	説明	資料	グループ ワーク	ディスカ ッション	時間外 学習	シラバス 時間外
回答	1	前期	0	0	2	5	1	2	2	3	0	3
		後期	1	3	1	3	2	2	3	3	0	1
回答	2	前期	2	2	4	4	6	5	7	4	3	5
		後期	2	0	1	5	3	2	5	5	3	3
回答	3	前期	8	13	10	18	27	20	26	26	19	17
		後期	8	8	11	27	21	24	22	26	21	14
回答	4	前期	83	85	77	90	79	84	75	85	81	87
		後期	72	80	80	69	76	75	68	68	68	90
回答	5	前期	262	255	262	238	242	244	215	237	252	243
		後期	204	196	194	183	185	184	168	185	195	179
1 ～ 5 合計			642	642	642	642	642	642	591	642	642	642
平均			4.68	4.65	4.65	4.52	4.55	4.56	4.50	4.52	4.62	4.57

質問項目			学修管理システム 時間外	事前課題	事後課題	コメント	時間外 対応	シラバス 内容	学修管理システム 内容	シラバス 成績	学修管理システム 成績	満足度
回答	1	前期	2	0	1	5	4	3	1	0	0	3
		後期	0	3	1	5	1	2	2	1	1	2
回答	2	前期	4	2	4	11	5	4	3	6	3	10
		後期	5	1	3	6	2	1	1	2	2	5
回答	3	前期	18	18	20	45	36	16	18	18	21	18
		後期	16	33	24	39	29	22	21	23	23	15
回答	4	前期	97	93	73	81	92	95	99	96	97	85
		後期	96	68	59	71	76	82	85	79	82	80
回答	5	前期	234	242	257	213	218	237	234	235	234	239
		後期	170	182	200	166	179	180	178	182	179	185
1 ～ 5 合計			642	642	642	642	642	642	642	642	642	642
平均			4.54	4.56	4.61	4.36	4.47	4.55	4.55	4.56	4.55	4.54

質問項目	回答 1		回答 2		回答 3		回答 4		回答 5		1～5 合計	全項平均
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
合計	37	37	94	57	412	427	1,734	1,524	4,793	3,674	12,789	4.56

5段階評価の結果をみると、全ての項目について、平均値は概ね前年並みを維持し、全科目平均値は前年度の 4.64 に対して 4.56 と下降した。評価値別では、今回のアンケートにおいて、回答「1」と「2」の評価は全体の 1.8%、「5」の評価は全体の回答数の 66.2%を占めている。なお、前年度の回答「1」と「2」の評価が全体に占める割合が 1.5%、「5」の評価が 74.3%となっている。

表 4 平成 19 年度～令和 2 年度の満足度の推移

年度	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2
満足度	4.21	4.13	4.31	4.43	4.42	4.33	4.50	4.58	4.34	4.33	4.66	4.65	4.54

表 4 は、平成 20 年度から今年度前期までの満足度の推移を示したものである。また表 7 には、科目ごとの各科目の評価値の結果を示した。これまでの推移を大きく上回った H30 年度とそれに匹敵する評価を得た R1 年度には及ばないものの、それに次ぐ評価を得ている。高い評価を得ること自体は望ましいことではあるが、学生が何に対し満足し何に対し不満を持つのか、その理由を把握し共有を図ることが、今後の授業設計・運営においてより重要であると思われる。

項目間での相対評価で見ると、「コメント」の評価が相対的に低い。満足度との相関が特に高い項目ではないが、前年度から目立って数値を落としているので、優先的に改善を図るべき項目と言える。この項目について高い評価を得られている授業について、その方法の情報共有を図るとともに、より効果的な方法について議論を重ねていく必要があろう。

第2章 アンケートの分析

2. 1 「教員の教授法について」の分析

各質問項目間の相関係数については、表5に示したとおりである。これらの中から、満足度との相関関係および各質問項目の平均点を抽出したものが表6、それに基づき散布図を描いたものが図1.影響・パフォーマンスマトリクスである。

パフォーマンスマトリクスにおいて第1象限に位置する項目は、満足度との相関が高くかつ評価も高い項目であり、本専攻の「強み」と考えられる。第4象限に位置する項目は、満足度との相関が高いにも関わらず評価が低い項目であり、本専攻において「優先的に改善が必要」と考えられる。第3象限に位置する項目は、評価が低い項目ではあるが満足度との相関が低いことから「改善の優先度は低い」と考えられる。第2象限に位置する項目は、満足度との相関が低いものの高い評価を得ていることから当面は「現状維持」が妥当であると考えられる。

(1) 本専攻の「強み」

令和2年度を通したデータに基づく、本専攻の大きな＜強み＞は「カリキュラム」、「シラバス整合性」そして「学力/資質/能力」である。本専攻の授業が体系立って編成されており、シラバスを通して授業内容が周知されていることを、学生たちが正しく認識し、それが学生個々の学力の向上や資質・能力のアップにつながっていることが実感されていることの証左であろう。これらの＜強み＞については、各授業の成功事例の共有等を通じて、引き続き維持と向上を図っていくことが重要であると考ええる。

(2) 「優先的に改善が必要な項目」

他方で、本専攻において「優先的に改善が必要な項目」としては「コメント」、「時間外対応」、「グループワーク」が挙げられる。また「コメント」については、満足度との相関は中程度であるが、突出して評価が低いので、やはり優先的に改善すべき項目であると言える。「グループワーク」についてはコロナ禍のリモート授業でグループワークを行っていることが影響を与えた可能性もあり、致し方ない面もある。「時間外対応」も同様にリモート授業という特殊性を加味しなければならないが、「学修管理システム時間外」および「コメント」との相関が高いので、これらを充実させることで「時間外対応」の不足を補うことが必要であろう。いずれもICT活用の巧みさでカバーすることになると思われるので、これら項目の数値が高い教員を講師役とした研修会の開催等を通じて、個々の教員のスキルアップを図っていくことが重要であると考ええる。

表 5 質問項目間の相関係数

	カリキ ュラム	学力/ 資質/ 能力	シラバス 整合性	理解 促進	説明	資料	グループ ワーク	ディスカ ッション	時間外 学習	シラバス 時間外	学修管 理シス テム 時間外	事前 課題	事後 課題	コメント	時間外 対応	シラバス 内容	学修管 理シス テム 内容	シラバス 成績	学修管 理シス テム 成績	満足度
カリキュラム	1.000																			
学力/ 資質/能力	0.800	1.000																		
シラバス 整合性	0.691	0.709	1.000																	
理解促進	0.590	0.641	0.679	1.000																
説明	0.548	0.628	0.617	0.705	1.000															
資料	0.592	0.679	0.725	0.724	0.774	1.000														
グループ ワーク	0.485	0.583	0.525	0.623	0.578	0.582	1.000													
ディスカ ッション	0.513	0.596	0.560	0.704	0.618	0.640	0.838	1.000												
時間外学習	0.492	0.475	0.494	0.460	0.459	0.485	0.470	0.527	1.000											
シラバス 時間外	0.660	0.693	0.811	0.687	0.639	0.729	0.591	0.604	0.539	1.000										
学修管理シ テム時間外	0.658	0.652	0.706	0.629	0.605	0.665	0.550	0.562	0.479	0.851	1.000									
事前課題	0.542	0.552	0.527	0.589	0.567	0.573	0.631	0.656	0.599	0.583	0.542	1.000								
事後課題	0.545	0.601	0.614	0.595	0.561	0.635	0.599	0.620	0.608	0.649	0.573	0.721	1.000							
コメント	0.402	0.446	0.496	0.597	0.491	0.574	0.531	0.591	0.416	0.530	0.497	0.552	0.598	1.000						
時間外対応	0.568	0.596	0.616	0.612	0.546	0.581	0.551	0.563	0.455	0.673	0.655	0.547	0.587	0.636	1.000					
シラバス 内容	0.663	0.708	0.795	0.685	0.636	0.713	0.539	0.584	0.475	0.849	0.753	0.571	0.619	0.549	0.726	1.000				
学修管理シ テム内容	0.652	0.683	0.704	0.655	0.625	0.660	0.560	0.570	0.500	0.787	0.824	0.604	0.624	0.538	0.736	0.879	1.000			
シラバス 成績	0.649	0.672	0.751	0.661	0.616	0.698	0.558	0.605	0.488	0.793	0.725	0.592	0.618	0.573	0.689	0.862	0.807	1.000		
学修管理シ テム成績	0.624	0.654	0.673	0.606	0.614	0.666	0.553	0.577	0.464	0.741	0.768	0.569	0.589	0.556	0.666	0.806	0.853	0.914	1.000	
満足度	0.590	0.652	0.701	0.748	0.704	0.782	0.618	0.690	0.486	0.710	0.642	0.617	0.690	0.682	0.633	0.702	0.666	0.678	0.638	1.000

表 6 満足度との相関係数および各項目評価平均

	全体満足 との相関 係数	各項目 評価 平均
カリキュラム	0.590	4.68
学力/資質/能力	0.652	4.65
シラバス整合性	0.701	4.65
理解促進	0.748	4.52
説明	0.704	4.55
資料	0.782	4.56
グループワーク	0.618	4.50
ディスカッション	0.690	4.52
時間外学習	0.486	4.62
シラバス時間外	0.710	4.57
学修管理システム時間外	0.642	4.54
事前課題	0.617	4.56
事後課題	0.690	4.61
コメント	0.682	4.36
時間外対応	0.633	4.47
シラバス内容	0.702	4.55
学修管理システム内容	0.666	4.55
シラバス成績	0.678	4.56
学修管理システム成績	0.638	4.55
平均	0.665	4.56

図1.影響・パフォーマンスマトリクス

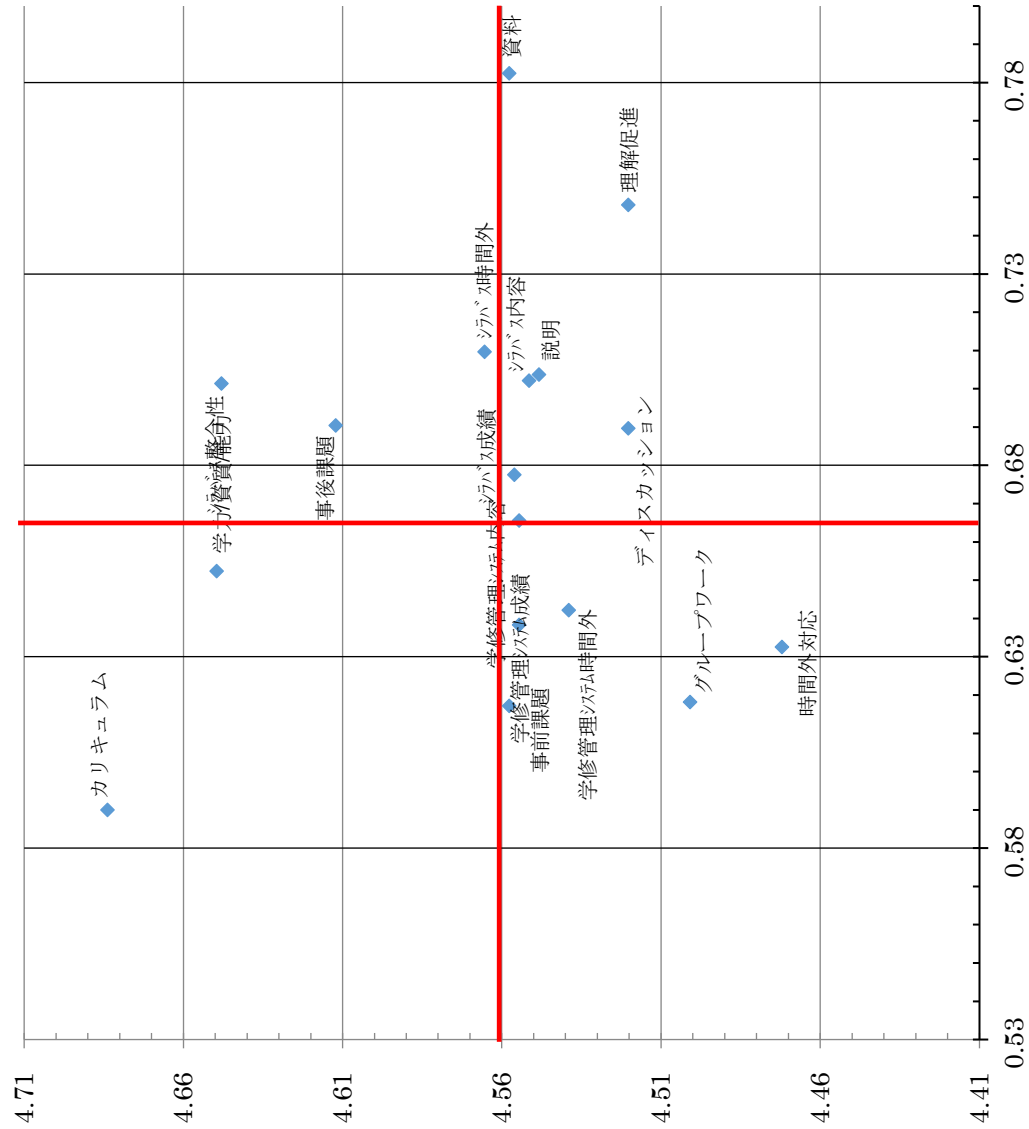


表7 個別科目ごとの評価値

区分	授業科目	開講期	担当教員	カリキュラム	学力 / 資質 / 能力	シラバス整合性	理解促進	説明	資料	グループワーク	ディスカッション	時間外学習	シラバス時間外	学修管理システム時間外	事前課題	事後課題	コメント	時間外対応	シラバス内容	学修管理システム内容	シラバス成績	学修管理システム成績	満足度
基本科目	経営戦略Ⅰ (経営戦略)	前期	李	4.64	4.64	4.75	4.57	4.68	4.68	4.54	4.68	4.68	4.54	4.54	4.71	4.75	4.36	4.32	4.57	4.57	4.68	4.68	4.68
	マーケティングⅠ (マーケティング)	前期	近藤	4.76	4.79	4.69	4.72	4.76	4.72	4.76	4.83	4.79	4.66	4.72	4.76	4.83	4.55	4.62	4.66	4.66	4.69	4.66	4.69
	経営組織Ⅰ (組織行動システム)	前期	西村	4.56	4.56	4.72	4.63	4.44	4.56	4.66	4.72	4.50	4.56	4.56	4.69	4.81	4.91	4.59	4.66	4.69	4.63	4.69	4.72
	ファイナンスⅠ (財務会計)	前期	旗本	4.79	4.64	4.61	4.25	4.11	4.43	3.85	4.00	4.50	4.50	4.39	4.61	4.54	4.39	4.21	4.46	4.32	4.43	4.32	4.36
	マーケティングⅡ (マーケティング)	後期	手島	4.43	4.48	4.61	4.22	4.43	4.48	3.42	3.78	4.39	4.52	4.48	3.87	4.52	4.13	4.43	4.52	4.48	4.48	4.48	4.39
	ビジネス倫理	前期	南	4.70	4.63	4.70	4.48	4.78	4.74	4.27	4.37	4.26	4.63	4.67	4.52	4.52	3.96	4.30	4.63	4.59	4.59	4.56	4.56
基礎科目	ビジネスコミュニケーション	夏季集中	旗本 外	4.80	4.73	4.87	4.87	4.67	4.67	4.73	4.67	4.87	4.67	4.53	4.73	4.80	4.53	4.40	4.53	4.53	4.60	4.60	4.87
	経営戦略Ⅱ (イノベーション戦略)	後期	玉井	4.61	4.61	4.78	4.67	4.61	4.72	4.67	4.67	4.83	4.67	4.56	4.61	4.78	4.83	4.56	4.67	4.67	4.67	4.61	4.61
	マーケティングⅡ (市場志向経営)	後期	猪口	4.64	4.64	4.29	4.29	4.57	4.43	4.43	4.43	4.43	4.29	4.43	4.50	4.57	3.93	4.07	4.36	4.43	4.43	4.43	4.43
	経営組織Ⅱ (問題解決能力の開発)	後期	林	4.71	4.79	4.79	4.79	4.86	4.79	4.64	4.71	4.57	4.79	4.57	4.71	4.79	4.64	4.79	4.71	4.71	4.64	4.64	4.93
	経営組織Ⅲ (戦略的人的資源管理)	前期	西村	4.89	4.67	4.89	4.67	4.39	4.78	4.78	4.78	4.78	4.83	4.83	4.94	4.89	4.78	4.67	4.89	4.94	4.94	4.94	4.78
	マーケティングⅢ (コストマネジメント)	後期	堺	4.70	4.60	4.75	4.55	4.65	4.70	4.60	4.70	4.60	4.60	4.55	4.65	4.65	4.55	4.65	4.60	4.50	4.55	4.55	4.50
(コア)	マーケティングⅣ (計算型経営)	前期	乙政	4.82	4.82	4.73	4.64	4.91	4.91	4.64	4.64	4.73	4.73	4.73	4.73	4.64	4.36	4.64	4.73	4.73	4.73	4.73	4.82
	ファイナンスⅡ (企業価値経営)	前期	手島	4.90	5.00	5.00	4.80	5.00	5.00		4.60	4.80	5.00	4.90	4.30	4.50	4.30	4.50	4.90	4.90	4.90	4.90	5.00

区分	授業科目	開講期	担当教員	カリキュラム	学力/資質/能力	シラバス整合性	理解促進	説明資料	グループワーク	ディスカッション	時間外学習	シラバス時間外	学修管理システム時間外	事前課題	事後課題	コメント	時間外対応	シラバス内容	学修管理システム内容	シラバス成績	学修管理システム成績	満足度
基礎科目 （コア）	ビジネス英語Ⅰ（ビジネス英語の基礎）	後期	河森外	4.67	4.75	4.75	4.33	4.67	4.50	4.20	4.58	4.50	4.58	4.42	4.50	4.17	4.67	4.58	4.50	4.58	4.58	4.50
	経営学・分析Ⅰ（意思決定の基礎）	非開講	非開講																			
	経営学・分析Ⅱ（ビジネス統計分析）	後期	西山外	4.67	4.67	4.67	4.17	4.33	4.33	4.00	4.33	4.67	4.50	4.33	4.67	4.67	4.67	4.50	4.67	4.50	4.50	4.33
	経営学・分析Ⅲ（ビジネス統計分析）*	前期	仙北谷	4.71	4.71	4.71	4.57	5.00	4.71	4.14	4.71	4.57	4.57	4.71	4.71	4.43	4.71	4.71	4.71	4.71	4.71	4.71
	ベンチャー経営Ⅰ（企業家精神）	後期	瀬戸	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
	創設経営Ⅰ（プロジェクト・マネジメント）	前期	宇田川	4.50	4.56	4.39	4.44	4.44	4.50	4.50	4.44	4.50	4.50	4.44	4.39	4.00	4.39	4.44	4.50	4.33	4.44	4.44
	創設経営Ⅱ（基礎的ビジネス能力の総合的向上）	後期	千葉	4.17	4.25	4.25	4.17	4.00	4.00	3.92	4.17	4.33	4.25	4.00	4.33	4.50	4.00	4.25	4.17	4.25	4.17	4.33
	地域経済・経営Ⅲ（地域経済の課題）	前期	下川	4.67	5.00	4.67	4.33	4.00	4.67	4.67	4.67	4.67	4.67	4.67	4.67	4.67	4.67	4.67	4.67	4.67	4.67	4.33
	ビジネス英語Ⅰ（初級ビジネス英語）	後期	浦島	4.73	4.64	4.55	4.64	4.45	4.73	4.64	4.45	4.64	4.55	4.55	4.45	4.64	4.64	4.64	4.45	4.73	4.55	4.64
	総合科目Ⅰ（サステナビリティ・マネジメント）	前期	内田	4.72	4.72	4.67	4.67	4.72	4.56	4.47	4.78	4.61	4.72	4.67	4.56	4.39	4.67	4.56	4.67	4.50	4.50	4.33
	総合科目Ⅱ（企業戦略とリーダーシップ）	前期	鈴木	4.27	4.13	4.13	4.00	4.07	4.07	4.40	4.20	4.07	4.13	4.13	4.20	4.33	4.27	4.00	4.13	4.00	4.13	3.93
	総合科目Ⅲ（グローバル・マネジメント）	後期	李	5.00	5.00	5.00	4.83	4.83	5.00	4.83	4.83	4.83	4.83	4.83	5.00	5.00	4.83	4.83	5.00	4.83	4.83	5.00
	総合科目Ⅳ（戦略的CSR）	後期	太田	4.80	4.90	4.80	4.70	4.80	4.80	4.70	4.90	4.80	4.60	4.90	4.80	4.20	4.70	4.80	4.60	4.80	4.60	4.50
発展科目 （エレクトイブ）	アカウンティングⅣ（国際会計）	後期	松本	3.75	3.75	4.50	4.75	5.00	4.50	4.33	4.75	4.75	4.00	4.50	4.50	4.50	4.50	4.50	4.50	4.50	4.50	4.50
	ファイナンスⅢ（金融経済・マネジメント）	後期	齋藤	4.80	4.80	5.00	5.00	4.80	4.80	5.00	5.00	4.80	4.80	4.80	4.80	4.80	4.80	4.80	4.80	4.80	4.80	4.80

区分	授業科目	開講期	担当教員	カリキュラム	学力/資質/能力	シラバス整合性	理解促進	説明	資料	グループワーク	ディスカッション	時間外学習	シラバス時間外	学修管理システム時間外	事前課題	事後課題	コメント	時間外対応	シラバス内容	学修管理システム内容	シラバス成績	学修管理システム成績	満足度	
発展科目	ビジネス英語Ⅱ (初級ビジネス英語)	前期	小寺外	4.33	4.42	4.33	4.33	4.42	4.42	4.25	4.33	4.50	4.25	4.17	4.33	4.25	4.33	4.08	4.33	4.25	4.25	4.25	4.33	
	ビジネス英語Ⅱ (初級ビジネス英語)	前期	瀬戸武田	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	4.80	5.00	5.00	5.00	5.00		
	ビジネス英語Ⅲ (初級ビジネス英語)	後期	坂本	4.75	4.70	4.65	4.40	4.50	4.55	4.21	4.25	3.95	4.30	4.40	4.10	4.15	4.15	4.40	4.50	4.50	4.35	4.55	4.65	
	ビジネス英語Ⅲ (初級ビジネス英語)	前期	小林	4.90	4.80	4.80	4.90	4.60	4.70	4.60	4.60	4.90	4.90	4.90	4.50	4.70	4.50	4.50	4.80	4.90	4.80	4.80	4.50	
	ビジネス英語Ⅲ (中級ビジネス英語)	後期	小林	4.71	4.86	4.57	4.86	4.71	4.71	4.43	5.00	5.00	4.43	4.86	5.00	4.71	4.71	4.57	4.43	4.86	4.71	4.86	4.86	
	特別講義Ⅰ (ローカリエス/大学集中講義)	夏集中	近藤外																					
	特別講義Ⅱ (地域産業/グローバル)	後期	李外	4.83	5.00	4.83	4.83	5.00	5.00	5.00	5.00	4.83	5.00	5.00	4.83	4.83	4.17	4.83	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	
	特別講義Ⅲ (Demola program)	夏集中	旗本外	4.00	4.00	4.00	3.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	3.00	3.00	3.00	3.75	3.75	4.00	3.50	3.25	3.25	3.75	3.75	3.50
実践科目	ビジネスプランニングⅠ	後期	齋藤外	4.55	4.32	4.18	4.05	3.91	3.86	4.32	4.23	4.55	4.18	4.18	4.23	4.18	3.86	4.09	4.09	4.23	3.95	3.95	4.00	
	ビジネスプランニングⅡ	前期	齋藤外	4.84	4.72	4.63	4.56	4.56	4.38	4.48	4.44	4.81	4.59	4.53	4.66	4.63	4.28	4.38	4.53	4.56	4.56	4.59	4.34	
	ケーススタディⅠ	後期	近藤外	4.55	4.38	4.41	4.24	4.34	4.28	4.55	4.55	4.66	4.28	4.14	4.52	4.52	3.86	4.10	4.03	4.00	4.28	4.21	4.34	
	ケーススタディⅡ	前期	玉井外	4.82	4.85	4.79	4.70	4.64	4.55	4.73	4.82	4.82	4.67	4.61	4.70	4.76	3.91	4.52	4.61	4.64	4.61	4.61	4.52	

区 分	授業科目	開 講 期	担当 教員	カリキ ュラム	学力 / 資 質 / 能 力	シラバス 整合性	理解 促進	説明	資料	グループ ワーク	ディスカ ッション	時間外 学習	シラバス 時間外	学修管 理シス テム 時間外	事前 課題	事後 課題	コメ ント	時間外 対応	シラバス 内容	学修管 理シス テム 内容	シラバス 成績	学修管 理シス テム 成績	満足度
ビジネスワークショップ	ビジネスワークショップ	後 期	李外	4.80	4.72	4.72	4.60	4.64	4.56	4.64	4.64	4.84	4.68	4.72	4.52	4.72	4.36	4.76	4.68	4.68	4.68	4.60	
	リサーチチーパー	後 期	アソレキ 教員全員	5.00	4.95	4.90	4.75	4.70	4.70	4.76	4.80	4.75	4.80	4.75	4.85	4.85	4.80	4.85	4.90	4.90	4.90	4.80	
			項目 平均	4.68	4.65	4.65	4.52	4.55	4.56	4.50	4.52	4.62	4.57	4.54	4.56	4.61	4.36	4.47	4.55	4.55	4.56	4.54	
			全体 平均	4.56																			

※「経済学・分析手法Ⅰ（行動意思決定の基礎）」は非開講のため、「特殊講義Ⅰ（ノースウェスタン大学集中講義）」は海外での集中講義のためアンケートを実施せず。

3章 まとめ

3. 1 分析結果のまとめ

今回のアンケート調査と分析を通じて、以下の点が明らかとなった。

- アンケート回収率が 83.2%と、大幅に改善をみた前年度に比し、やや下降した。ただし、前期のみの回収率は高かったため、コロナ禍で実質的に Web のみの回収方法となったことが回収率のアップにつながったと認識していたが、同様に Web のみの回収となった後期を合算すると回収率が低くなったため、回収方法の違いは本質ではない可能性がある（前年度までは紙媒体と併用して実施しており、回収率は高くなっていた）。回収手法よりもアンケートの回収のための積極的な広報周知努力が必要ということであろう。
- 全体の満足度は、これまでにない水準となった H30 年度をさらに上回った R1 年度（4.71）には及ばなかったが、比較的高い 4.54 となった。過去三年にわたり高い評価が得られた理由の把握と共有により、今後も高い評価を得られるような授業の設計・運営を行なっていく必要がある。
- 本専攻の強みの一つは、「カリキュラム」「シラバス整合性」に代表される系統だった授業編成によって実現される「学力/資質/能力」の向上にある。今後も【カリキュラム・ポリシー】【学生に身につけさせたい学力・資質・能力や養成する人物像】に則った授業の設計とその適切な周知を図っていくことが必要である。
- 本専攻の前年度までの強みは、「理解促進」「グループワーク」「資料」に表されるケース・メソッドの導入や対話・討論型の授業運営等を通じて理解促進を図る授業提供法にあった。本年度はこのうち「グループワーク」について、改善すべき項目に該当している。これらは本専攻の強みとして長年にわたってノウハウを築き上げたものであったが、コロナ禍のリモート授業の導入により、その強みが十分に発揮されず、とくに「グループワーク」に課題は発生している可能性がある。そのため、新たな ICT スキルを導入し、本来の強みを取り戻すことが求められる。
- 「優先的に改善が必要な項目」に分類されるのは「時間外対応」「コメント」である。「コメント」は突出して評価が低いので、優先的に改善すべき項目であると言える。「時間外対応」は、コロナ禍により「学修管理システム時間外」による補完が求められており、その充実化によって「時間外対応」の不足を補っていくことが必要であろう。いずれも ICT 活用の巧みさでカバーすることになるので、研修会の開催等を通じて、個々の教員のスキルアップを図っていくことが望ましい。

3. 2 今回の研修で確認・議論しておきたい点

これまでのアンケート調査と分析の結果を踏まえ、FD 研修では、以下の点について確認や議論をおこないたい。

- 本専攻の強みでもある系統だった授業編成のもとで、各教員がいかにしてポリシーや本専攻の目指す学生像に則った授業を設計し、教育効果を向上させているかについて情報共有したい。
- 優先的に改善が必要な項目としては、「グループワーク」「時間外対応」「コメント」がある。これらの改善のための方法について議論を行いたい。

第4章 令和2年度 CGS教育支援部門の活動状況

令和2年度 CGS 教育支援部門の活動状況等

4 月

- ・ 遠隔授業実施のためのFD研修会
- ・ 遠隔授業実施のための「manaba教員向け情報ページ」を中心としたFD活動
- ・ 新入生アンケート

5 月

- ・ 前期授業開始（5/7～）：遠隔授業サポート
- ・ 新型コロナウイルス感染症の学生生活への影響に関するアンケート

6 月

- ・ アクティブラーニングに関する教育効果検証実施要項の策定
- ・ 前期中間試験の実施方法を検討するワークショップ
- ・ コンピテンシー評価ツール「GROW」実施開始

7 月

- ・ 前期期末試験の実施方法を検討するワークショップ
- ・ （学部）学科単位での授業改善の取り組み
- ・ アントレプレナーシップ専攻FD研修会
- ・ アントレプレナーシップ専攻授業参観
- ・ アセスメントテスト（GPS-Academic）の実施と検証
- ・ 遠隔授業に関する学生アンケート
- ・ 新型コロナウイルス感染症の学生生活への影響に関する学生アンケート

8 月

- ・ 授業改善のためのアンケート（学部・アントレ）
- ・ 後期授業実施方針（案）に関するアンケート（教員・学生）

9月

- ・ 学生アンケート（後期の受講環境に関して）
- ・ 遠隔授業実施のためのFD研修会-前期授業の振り返り & 後期授業に向けて
- ・ ルーキーズキャンプ（三大学新入生オンライン交流会）

10月

- ・ 後期授業開始（9/28～）：遠隔授業サポート

11月

- ・ 新任教員研修会
- ・ 学生論文賞第一次審査（プレゼンテーション）
- ・ アントレプレナーシップ専攻授業参観

12月

- ・ 学生論文賞最終審査（2月：結果発表）

1月

- ・ 卒業生アンケート調査実施（2009（平成21）年度、2017（平成29年）度卒業生対象）
- ・ 卒業年次生向けアンケート
- ・ 授業改善のためのアンケート（学部・アントレ）
- ・ （大学院）大学院FDアンケート
- ・ アントレプレナーシップ専攻FD研修会
- ・ 学生生活・遠隔授業に関する学生アンケート

3月

- ・ 学生論文賞表彰式
- ・ FD活動報告書作成
- ・ FD研修会-令和2年度の振り返り & 次年度授業に向けて-
- ・ 三大学 FDSD ワークショップ（リベラルアーツ）

コロナ禍におけるF D活動（遠隔授業対応）

新型コロナウイルス感染症対策として、危機対策本部会議に遠隔授業実施のためのプロジェクトチームが設置され、教育支援部門は主に、教員への遠隔授業支援・F D活動の役割を担う。教学IR室とも連携しながら、遠隔授業に対応するための各種F D研修会、ワークショップを以下のとおり実施した。

1. 遠隔授業実施のためのF D研修会

開催日時 | 令和2年4月9日（木）～10日（金）、13日（月）～17日（金）

13時30分～16時30分

参加者数 | 98名（常勤教員：69名、非常勤講師：29名）

前期遠隔授業実施に向けて、学修管理システム「manaba」の基本操作について全体説明を行い、続いてmanabaの各種機能についての研修、オンデマンド教材作成方法についての研修、Zoomによる模擬授業を、会場ごとに分かれて実施した。

2. 前期中間試験の実施方法を検討するワークショップ

開催日時 | 令和2年6月3日（水） 15時00分～16時00分

参加者数 | 40名程度

遠隔手法を用いた中間試験に向けて、教員同士で実施方法の意見交換を行う場として開催し、良いアイデアや悩みごとなど共有をし、最良の方法を模索するための議論を行った。

3. 前期期末試験の実施方法を検討するワークショップ

開催日時 | 令和2年7月3日（金） 13時30分～14時30分

参加者数 | 40名程度

遠隔手法を用いた前期期末試験に向けて、教員同士で実施方法の意見交換を行う場として開催し、前期中間試験を遠隔手法にて実施した事例なども紹介しながら、良いアイデアや悩みごとなど共有をし、最良の方法を模索するための議論を行った。

4. 遠隔授業実施のためのFD研修会-前期授業の振り返り&後期授業に向けて

開催日時 | 令和2年9月11日(金) 13時30分～14時30分

参加者数 | 40名程度

前期に実施した「授業改善のためのアンケート【学生】」,「遠隔授業に関するアンケート【学生】」及び「後期授業実施方針(案)に関する意見【教員・学生】」の結果について概要を報告し,その結果を踏まえた意見交換を行った。

また,後期遠隔授業実施に向けて,オンデマンド教材の作成方法や,学生への課題・レポートの付与(学生の学修時間)について,学修管理システム「manaba」の活用について(小テスト機能,レポート機能,掲示板機能など),授業のインタラクティブ性の確保についてなどを取り上げて,前期授業を遠隔手法にて実施した事例なども紹介しながら,良いアイデアや悩みごとなどの共有,議論を行った。

5. FD研修会-令和2年度の振り返り&次年度授業に向けて-

開催日時 | 令和3年3月25日(木) 13時30分～15時45分

参加者数 | 80名程度

令和2年度に実施した「授業改善のためのアンケート」や「学生生活・遠隔授業に関するアンケート」の結果報告,教学IR室による「後期科目の成績分布」の分析結果を共有し,令和2年度に実施した遠隔授業について振り返った。

また,次年度の授業開始に向けて,新任教員・非常勤講師向けに,オンデマンド教材の作成方法,学生への課題・レポート,学修管理システム(manaba)の活用についてもおさらいし,令和2年度に各教員が経験した遠隔授業及び遠隔・対面のハイブリッド型授業のノウハウを共有し,令和3年度の授業準備につなげた。

令和2年度
CGS教育支援部門スタッフ一覧

教育支援部門運営会議		
教育支援部門長		佐野博之
教育支援副部門長		大津晶
教育支援副部門長		田島貴裕
	CGS副センター長 (教育担当副学長)	鈴木将史
	学部教育開発専門部会長	竹村壮太郎
	大学院教育開発専門部会長	片山昇
	専門職大学院教育開発専門部会長	内田純一
学部教育開発専門部会		
部会長		竹村壮太郎
	教育支援部門長	佐野博之
	CGS副センター長 (教育担当副学長)	鈴木将史
	教育支援副部門長	大津晶
	教育支援副部門長	田島貴裕
	学部教務委員会委員長	石井登
		西永亮
		佐山公一
		中浜隆
		土居直史
		章天明
大学院教育開発専門部会		
部会長		片山昇
	大学院現代商学専攻長	金鎔基
	大学院現代商学専攻教務委員会委員長	小倉一志
		松家仁
		三浦克宜
		西口純代
		加賀田和弘
		橋本伸
専門職大学院教育開発専門部会		
部会長		内田純一
	大学院アントレプレナーシップ専攻長	齋藤一朗
		猪口純路
		小林敏彦
		手島直樹
キャリア教育開発専門部会		
部会長	教育支援副部門長	大津晶
	教育支援部門長	佐野博之
	教育支援副部門長	田島貴裕
	CGS副センター長 (教育担当副学長)	鈴木将史
	学部教務委員会委員長	石井登
	教務課長	高玉博史
	学生支援課長	安部田康弘

編集

令和 2 年度小樽商科大学グローバル戦略推進センター教育支援部門運営会議

部門長	佐野 博之	(経済学科教授)
副部門長	大津 晶	(社会情報学科教授)
副部門長	田島 貴裕	(教育支援部門准教授)
	鈴木 将史	(理事, 教育担当副学長)
	竹村 壮太郎	(企業法学科准教授)
	片山 昇	(一般教育等准教授)
	内田 純一	(アントレプレナーシップ専攻教授)

	高玉 博史	(教務課長)
	河崎 智之	(教務課教務企画係長)
	稲童丸 翔	(教務課教務企画係)
	高桑 将来	(教務課教務企画係)

ヘルメスの翼に—小樽商科大学 FD 活動報告書— 第 13 集

発行日 令和 3 年 5 月 1 日

発行所 国立大学法人 小樽商科大学グローバル戦略推進センター教育支援部門
〒047-8501 小樽市緑 3 丁目 5 番 21 号

TEL : 0134-27-5240 / FAX : 0134-27-5238

E-mail : ced-sc@office.otaru-uc.ac.jp